

企業の中期経営計画に関する特性及び株主価値との関連性について —中期経営計画データを用いた実証分析—

浅田 一成 CMA
山本 零 CMA

目 次

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 注目が集まる中期経営計画 | 5. 中計の目標数値を達成する企業の特性 |
| 2. 中計データベースの構築 | 6. 中計発表企業の株式市場での評価 |
| 3. 企業の中計開示の概観 | 7. 終わりに |
| 4. 中計を自発的に開示する企業の特性 | |

(株)アイフィスジャパンと協力して中期経営計画（中計）データベースを構築し、中計を開示する企業の特性、株主価値との関連性を検証した。その結果、株価のディスカウントを是正するため低成長企業がより積極的に開示し、競争上の不利益から高収益企業は開示をためらう傾向にあった。また中計開示はエージェンシーコストの削減を通じて株主価値向上に寄与するものの、現実的な目標設定がより重要であることが示唆された。

1. 注目が集まる中期経営計画

安倍政権の経済政策や日銀の金融緩和、円安の恩恵により、過去最高の利益を更新する日本企業が増加している。しかし、ROEや配当性向などの収益力、株主還元の大きさを見ると日本企業は欧米と比べて依然として低い。また、日本では四

半期決算の開示が定着して以降、短期的な業績動向に過度に注目が集まると言われている。企業や投資家の短期志向（ショートターミズム）が進んでおり長期的な視点に立った経営や投資ができていないとの声も聞かれる。そのような中で、更なる株主価値向上に向けて、中長期の株主価値向上施策を投資家へ説明し対話を通じて着実に実行し



浅田 一成（あさだ かずなり）

三菱UFJ信託銀行資産運用部国内株式オンツ運用課ファンドマネージャー。2004年大阪大学大学院工学研究科精密科学専攻修士課程修了。同年4月、三菱信託銀行（現・三菱UFJ信託銀行）入社。07年1月より現職。



山本 零（やまもと れい）

武蔵大学経済学部准教授。2004年中央大学大学院理工学研究科経営システム工学専攻修士課程修了。同年4月、(株)エムティービーインベストメントテクノロジー研究所（現・(株)三菱UFJトラスト投資工学研究所）入社。15年4月より現職。07年中央大学大学院理工学研究科経営システム工学専攻博士課程修了（博士（工学））。